

図書館だより



2020年
1月号

2020年1月14日発行



2020年が始まりました。今年はいよいよ東京でオリンピック・パラリンピックが開催されます。観戦チケットは倍率がとても高かったですが、見事当選した人はみなさんの中にもいるでしょうか。いつもテレビ越しに観ているオリンピックが日本で行われるって考えるだけでもわくわくしてきますよね。大きな楽しみが夏に待っている2020年ですが、みなさんはどんな年にしたいなと思っていますか。何か新しいことに挑戦したい、健康第一で過ごしたい、学校生活を充実させたい、など、それぞれが思い描いた目標を叶えられる1年にしましょう。みなさんの目標を叶える手助けとなる本を探しに図書館にもたくさん通ってほしいなと思います。今年もまた色々な本を紹介しながら、楽しんでもらえる紙面を作れるよう頑張りますので、チラっとでも読んでみてもらえれば嬉しいです。3年生は悔いの残らないよう、卒業までにたくさん本を借りてくださいね。

日本には神秘的な場所がたくさん

291-タ 『ど・スピリチュアル日本旅』 たかの てるこ || 著 幻冬舎

世界60カ国を旅し、各国でのパワフルな旅の様子を本にしてきたたかのてるこさんが今回魅力を伝えてくれる地は日本です。たかのさんが「世界一、スピリチュアルな国」だと確信した日本には、どんな魅力やパワーがあるのでしょうか。和歌山の高野山にてプチ修行、三重の伊勢神宮へ母と二人旅、北海道ではアイヌのシャーマンに直面、佐賀では農家民宿を体験、沖縄の本島・離島では海運デトックス、と各地でたかのさんらしい賑やかな旅が繰り広げられています。その地ならではのスピリチュアルな体験や人との温かな出会いに「私も今年は旅をしよう！」という気持ちが生まれます。

お餅の可能性は無限大

596.3-サ 『春夏秋冬餅レシピ』 齋藤 宗厚 || 著 トランスワールドジャパン

お餅はお正月に食べるもの、というイメージが何となくありますが、春夏秋冬を通して、おいしくいただけるお餅のレシピが満載です。焼いたお餅に様々な具材を載せてカナッペにしたり、和風だけでなく、中華や洋風のお雑煮にしたり、お餅のグラタンや肉じゃが餅、餅酢豚など主食に混ぜたりと、お餅にはこんなアレンジの仕方もあったのかと驚きや発見があります。斬新に感じるレシピも、完成した料理の味を想像してみると、「こうやって食べるお餅もおもしろそう！」と思えるものばかりです。お正月の定番を食べ終わったら、ぜひ試してみてください。

子年（ねずみどし）に読みたい本

今年の干支は子（ねずみ）です。ねずみは七福神の大黒天（大国主神）の使者であるという信仰があります。また、京都府の大豊神社の境内にある大国社という末社には、狛犬ならぬ、狛ねずみの像が安置されており、子年のお正月には初詣に多くの人々が訪れるのだそう。この近辺では、東京都杉並区にある福相寺（ふくそうじ）にも米俵に乗ったねずみの像があります。今年も1年がよい年となるように干支のねずみのいる寺社へ参拝に出かけるのもいいですね。

778-コ 『ミッキーマウス 90のひみつ』 講談社

世界的大スターであるミッキーマウスは、おそらく世界で一番有名なネズミではないでしょうか。そのミッキーマウスについて、ファンにとってはおなじみのことから、マニアックな情報まで90の事項でミッキーマウスを知ることができる本です。『ミッキーの最初のセリフは「ホットドッグ！」だった』、『ミッキーはプルートを売ったことがある』など、思わず「えっ!？」と声が出てしまうような驚きの事実も載っていておもしろいです。多才な活躍で私たちを楽しませてくれるミッキーマウスは今年でなんと誕生から92年を迎えます。これからも変わらず人々にたくさん夢を与えてくれることでしょう。

933-キ 『アルジャーノンに花束を』 ダニエル・キイス || 著 早川書房

この本は変わったスタイルで書かれています。主人公チャーリー・ゴードンにより書かれた経過報告集なのです。彼は34歳、幼児ほどの知能しかありません。大学教授による頭の高くなる実験に被験者として協力することになり、その経過報告を彼なりに書き始めます。そのため、文の出だしは「けえかほおこく1」と拙いのです。そしてアルジャーノンは彼と同じ実験を先に受けた白ネズミの名前です。実験の成果で賢くなるチャーリー、しかし人間の幸福は賢さやそれによってもたらされるものにあるのでしょうか？アルジャーノンに花束を望む彼の言葉のうらに、ぜひ思いを馳せて下さい。

図書館司書の「今月はこの本を読みました」

最近、「目指せ年間100冊」の目標を達成し、たくさん本と出会っていますが、未開拓のジャンルも残っています。そのひとつであるSFのジャンルからフィリップ・K・ディックの『ユービック』(B933-デ 早川書房)を読みました。テレパス(読心能力者)やプレコグ(予知能力者)、イナーシャル(不活性者)など、聞き慣れない言葉が続々登場し、SF初心者としては期待が膨らみます。超能力者たちと、その能力を妨げる不活性者、その両方がビジネスとして成り立った世界で、繰り広げられる不可思議な事件。超能力者たちは忽然と姿を消し、彼らを追った不活性者たちは爆発に合う。それによって引き起こされたのは、過去へと時間が退行していく不可解な現象。首謀者は誰なのか、そこにはどんな目的があるのか、読者へ継続的に宣伝される【ユービック】なる商品が意味するものは何なのか、すべてが謎に包まれており、読み終わってもまだ謎だらけの私は今もう一度読み返しています。今度こそ、謎は解けるでしょうか。【今井】

★先生がプロデュース!! 今月の展示★

今月の展示は…、**芸術科 結城先生** がプロデュースです◎

展示のテーマは…、【**忘れる**】

締切りを忘れ、財布を忘れ、僕はとてもうっかり忘れっぽいので今回は身近な「忘れる」をテーマに選んでみました。といっても「もの忘れの治し方」などではなく、忘れることをどちらかというと肯定的に思ってもらえるような本をチョイスしたつもりです。好きなことや大切なことは勿論忘れなくとも、恥ずかしかったり痛いことなど、「忘れることのできない(忘れたくても)ものが誰にでもあると思います。忘れたいと思いつつ結局忘れられないそういうものが今の自分を形作っています。では「忘れる」ことにはどんな意味があるのだろうか、と考えてみました。

◆展示本リスト◆

- 913.6-フ 『忘却の河』 福永武彦 || 著 新潮社
…過去のある事件を忘れることが出来ない男とその家族の物語。高校生の時に読んで忘れられない一冊。
- 913.6-ヨ 『ハチ公の最後の恋人』 吉本ばなな || 著 中央公論新社
…ハチ公(という男)の最後の恋人になると祖母に予言された高校生の私。ラストの栗が心に残ります。
- 913.6-オ 『麦の海に沈む果実』 恩田陸 || 著 講談社
…全寮制高校の学園ミステリー。主人公・理瀬の記憶に隠された謎。少女漫画的で超読みやすいです。
- 933-グ 『リプレイ』 ケン・グリムウッド || 著 杉山高之 || 訳 新潮社
…突然死した中年男が気付くと高校生に。繰り返す人生の「リプレイ」から抜け出すことができるのか。
- 911.5-ニ-11 『日本の詩集11 立原道造詩集』より『萱草に寄す』 立原道造 || 著 角川書店
…24歳で早世した道造が失恋体験を昇華した詩集。特に「ひんがしのちのおもいに」はエモいです(良い意味)。
- 493-オ 『「痴呆老人」は何を見ているのか』 大井玄 || 著 新潮社
…痴呆老人の診察を通して医学と哲学の視点から現代の人間について論考した本。仏教まで登場します。
- 『コロ-光と追憶の変奏曲』 国立西洋美術館 || 著
…旅先の思い出をアトリエで思い出しながら絵に描いた画家コロ-の画集。地味ですが傑作揃いです。
- 748-ラ 『All about Saul Leiter ソール・ライターのすべて』 ソール・ライター || 著 青幻舎
…「終わることのない世界の中にある小さな断片と思い出を創り出すものだ」ソール・ライター
- E-ヨ 『デリカシー体操』 ヨシタケ シンスケ || 著 グラフィック社
…「忘れたことすら覚えていないどうでもいいものたち」(帯文より)を描いたイラスト集。共感必至。

この中でも、いちおしなのは…



493-オ 『「痴呆老人」は何を見ているのか』 大井玄 || 著 新潮社
「忘れる」をキーワードに、「私」や「世界」、「つながり」を医師が深く考察しています。筆者は「人は程度の異なる「痴呆」である」と述べています。
認知症だった僕の父の手帳に「く忘れる」は神様の贈り物」と書かれていました。人生は全てを覚えておくには辛すぎるのかもしれないね。ならば「忘れる」のも悪いことばかりではないのかも。生きることに本当に考えさせられた一冊。

本で振り返る平成の30年

新年は平成19年(2007年)から時代と本を振り返っていきましょう。この年、当時まだアマチュアだった石川遼選手(現プロゴルファー)がマンシングウェア KSB カップにアマチュア枠としてツアー初出場し、史上最年少優勝(15歳 245日)を達成しました。石川選手の生まれ故郷は埼玉県。当時、埼玉は歓喜に沸いたことでしょう。この年のベストセラー(トーハン調べ)1位には、坂東真理子さんの『**女性の品格**』が輝きました。当時ケータイ小説という新たなジャンルがブームを起こしており、この年は10位に『**恋空**』(美嘉 || 著 スターツ出版)、12位に『**赤い糸**』(メイ || 著 ゴマブックス)など4冊が20位内にランクインしています。

翌平成20年(2008年)は、アメリカ大統領選挙で、民主党のバラク・オバマ氏がアフリカ系アメリカ人として初のアメリカ合衆国大統領に就任した年です。この年の1位となったのはシリーズ最終巻となる『**ハリ-ポッターと死の秘宝**』です。2位にはダメダメなサラリーマンと、関西弁を話すゾウの姿をした神様がネーシャが軽快に成功習慣のコツを教えてくれる『**夢をかなえるゾウ**』(水野敏也 || 著 飛鳥新社)が続きました。また『**B型自分の説明書**』をはじめとした血液型本が大変人気だった年です。

平成21年(2009年)は、21世紀に起きる日食の中で継続時間が最も長い皆既日食が観測されました。これより長い日食が起こるのは、約122年後ということです。この年の1位は村上春樹さんの『**1Q84**』(1・2)でした。9位に入った湊かなえさんの『**告白**』は衝撃的な展開が読む人の心に残る作品で、秋草の図書館でもたくさん読まれていました。また、11位には前年アメリカ大統領に就任したオバマ氏の『**オバマ演説集**』が入りました。

159-ハ 『女性の品格』 坂東 真理子 || 著 PHP研究所

女性が社会進出し、多方面において活躍できるようになった現代において、女性が身につけておきたい振る舞いがまとめられています。言葉遣いや行動など、日常生活の中での些細な心がけの積み重ねが自分自身の品性を磨いていってくれるのだと、本を通じて学ぶことができます。「花の名前を知っている」、「姿勢を正しく保つ」、「人の見ていないところで努力する」といった自分の成長に繋がるヒントを知るだけでなく、「約束をきちんと守る」、「感謝はすぐに表す」など基本的ではあるけれど、良好な人間関係を築くのに欠かせない大切なことを再確認するよい機会にもなるでしょう。

913.6-ミ 『夢をかなえるゾウ』 水野 敏也 || 著 飛鳥新社

自分を変えたいと思っている僕の前に現れた象の姿をした神様がネーシャ。ヒンドゥー教の神様のはずなのに、なぜかバリバリの関西弁でまくしたてるところが謎に満ちている。だけど、そんなガネーシャの勢いに乗せられ、ガネーシャ式自分の変え方を教えてもらうことに。

だけど、ガネーシャが出してくる毎日の課題は「靴を磨く」「人を笑わせる」「明日の準備をする」など、「これで本当に変わるの?」と疑いが浮かぶものばかり。そんな気持ちがガネーシャに伝わり、その度、喧嘩が勃発。こんな状況で本当に僕は自分を変えることができるのだろうか。